

音 楽

| 発行者 | | | 教科書の記号・番号 | 判型 総ページ数 | 検定済年 |
|-----|-------|-------|---|--------------------------------|-------|
| 番号 | 名称 | 略称 | | | |
| 17 | 教育出版 | 教 出 ◆ | 音楽 1 0 1 2 0 1 3 0 1 4 0 1 5 0 1 6 0 1 | A 4 変型 ※ 101 102のみAB 500 | 平成31年 |
| 27 | 教育芸術社 | 教 芸 ◆ | 音楽 1 0 2 2 0 2 3 0 2 4 0 2 5 0 2 6 0 2 | A 4 変型 508 | |

※ 「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

| 校 種 | | 聴覚障害特別支援学校 | 肢体不自由・病弱特別支援学校 |
|--------|----------------------------------|--|---|
| 観点 | 児童の実態 | ・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。 | ・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。 |
| | 1 障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等 | ・動きを模倣する活動など、視覚的な情報で学習活動が工夫できるもの。 | ・上肢の操作を伴うものであっても、学習活動が工夫できるもの。 |
| | 2 障害への配慮を要する内容等 | ・音の重なりによる響きを感じ取ることがねらいになっており、学習活動に困難が想定されるもの。 ・演奏や歌唱の聞き比べ等、学習活動に困難が想定されるもの。 | ・上肢の操作を伴うため、楽器の演奏等の学習活動に困難が想定されるもの。 ・心疾患等に関わる配慮が必要なもの。 ・各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。 |
| 構成上の工夫 | 障害の状態に応じた事項、その他 | ・聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。 | ・通院等による学習期間の空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されているもの。 ・写真、図絵等で視覚的に学習活動が示されているもの。 ・ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。 |

小学部 音楽(聴覚障害特別支援学校)

| 発行者 | | 教出 | 教芸 |
|-------------------|---|---|---|
| 内 | 表現 教材数 | 246 最少 | 247 最多 |
| | 鑑賞 楽曲数 | 89 最多 | 71 最少 |
| | 音楽を形づくっている要素について、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて示した箇所数 | 88 最少 | 121 最多 |
| | 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について示した箇所数 | 120 最少 | 199 最多 |
| | 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図ることを示した箇所数 | 128 最多 | 52 最少 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の曲数(歌唱) | 21 最多 | 15 最少 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の題材数(器楽) | 6 最多 | 3 最少 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の教材数(音楽づくり) | 1 最少 | 3 最多 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の曲数(鑑賞) | 17 最少 | 21 最多 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の資料数 | 164 最少 | 185 最多 |
| | 諸外国の音楽の曲数と資料数(表現の曲数) | 56 最多 | 49 最少 |
| | 諸外国の音楽の曲数と資料数(鑑賞の曲数) | 70 最多 | 47 最少 |
| | 諸外国の音楽の曲数と資料数(資料の数) | 184 最多 | 147 最少 |
| | 他教科等や幼稚園教育における表現に関する内容などと関連させた箇所数 | 30 最多 | 29 最少 |
| 発展的な内容を取り上げている箇所数 | 109 最小 | 113 最多 | |
| 容 | 聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①動きを模倣する活動など、視覚的な情報で学習活動が工夫できるもの。 | 66箇所 ①3年「遊び歌めぐり」では、友達と組になって歌の拍に合わせて手を合わせる活動があり、動きを介して学習することができる。(P38、39) | 42箇所 ①2年「音楽でみんなとつながろう」では、歌に合わせて日本語の挨拶を手話で表現する活動があり、歌に対する関心を高めて学習することができる。(P6、7) |
| | 聴覚障害への配慮を要する内容等について ①音の重なりによる響きを感じ取ることがねらいになっており、学習活動に困難が想定されるもの。 ②演奏や歌唱の聞き比べ等、学習活動に困難が想定されるもの。 | 43箇所 ①5年「声のひびき合い」では、和音に合わせて旋律を作る活動があり、配慮を要する。(P26、27) ②4年「ききどころを見つけて」では、オーケストラの合奏を聞いて、聞こえてきた旋律や楽器の名前を書いたり、友達と話し合ったりする活動があり、学習の際に配慮を要する。(P52、53) | 69箇所 ①5年「音の重なりを感じ取ろう」では、リコーダーの音が重なり合う響きを感じ取りながら演奏する活動があり、配慮を要する。(P16、17) ②1年「みつけたおとでよびかけあいましょう」では、見つけた音を声で表して紹介する活動があり、学習の際に配慮を要する。(P30、31) |
| 構成上の工夫 | 説明資料の箇所数 | 65箇所 | 61箇所 |
| | 障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。 | ①1年「うたでまねっこ」では、歌詞や使用する楽器、リズムを図や絵で示してある。(P54、55) | ①3年「歌って音の高さを感じとろう」の「せりりつづくり」では、音の高低のイメージをイルカのジャンプに見立てて、図や絵で示してある。(P13) |
| 参考 | 国旗・国歌の扱い | あり | あり |

小学部 音楽(肢体不自由・病弱特別支援学校)

| 発行者 | | 教出 | 教芸 |
|-------------------|--|--|--|
| 内 | 表現 教材数 | 246 最少 | 247 最多 |
| | 鑑賞 楽曲数 | 89 最多 | 71 最少 |
| | 音楽を形づくっている要素について、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて示した箇所数 | 88 最少 | 121 最多 |
| | 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について示した箇所数 | 120 最少 | 199 最多 |
| | 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図ることを示した箇所数 | 128 最多 | 52 最少 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の曲数(歌唱) | 21 最多 | 15 最少 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の題材数(器楽) | 6 最多 | 3 最少 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の教材数(音楽づくり) | 1 最少 | 3 最多 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の曲数(鑑賞) | 17 最少 | 21 最多 |
| | 我が国や郷土の伝統音楽の資料数 | 164 最少 | 185 最多 |
| | 諸外国の音楽の曲数と資料数(表現の曲数) | 56 最多 | 49 最少 |
| | 諸外国の音楽の曲数と資料数(鑑賞の曲数) | 70 最多 | 47 最少 |
| | 諸外国の音楽の曲数と資料数(資料の数) | 184 最多 | 147 最少 |
| | 他教科等や幼稚園教育における表現に関する内容などと関連させた箇所数 | 30 最多 | 29 最少 |
| 発展的な内容を取り上げている箇所数 | 109 最少 | 113 最多 | |
| 容 | 肢体不自由・病弱の児童が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①上肢の操作を伴うものであっても、学習活動が工夫できるもの。 | 68箇所 ①1年「しゅわやあしぶみをしながらうたおう(さんぽ)」では、手話をしながら歌う活動があり、動きを簡略化するなどの表現の工夫ができる。(P69) | 56箇所 ①5年「いろいろな音色を感じ取ろう」では、様々な楽器が提示されており、児童が活動しやすいものを選ぶことができる。(P31) |
| | 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①上肢の操作を伴うため、楽器の演奏等の学習活動に困難が想定されるもの。 ②心疾患等にかかわる配慮が必要なもの。 ③各学年の児童数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。 | 109箇所 ①4年「アンサンブルの楽しさ」では、鍵盤ハーモニカ、リコーダー等による合奏のため、学習活動に困難が想定される。(P50) ②なし ③5年「ゴジラ」では、6種類の楽器を使った合奏になっており、取扱いが困難と思われる。(P66) | 103箇所 ①3年「音の重なりをかんじて合わせよう」では、リコーダー等を使った合奏があり、学習活動に困難が想定される。(P68) ②なし ③4年「スーパーカリフラジリスティックエクスピアドーション」では、7パートの合奏であり、取扱いが困難と思われる。(P78) |
| 構成上の工夫 | 説明資料の箇所数 | 65箇所 | 61箇所 |
| | 障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習期間の空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されているもの。 ②写真、図絵等で視覚的に学習活動が示されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。 | ①各学年の巻末に、「『音楽のもと』まとめ」として、学習と関連した内容がまとめてある。(5年P74など) ②3年「せんりつの流れとへん化」では、チェロの旋律とピアノの動きが図や絵で示してある。(P35) ③4年「曲に合った歌い方」では、見開きの左側に楽譜を示し、右側に表現を深める過程を示してある。(P28、29) | ①各学年の巻末に、「ふり返りのページ」として、学習のポイントがまとめて示してある。(4年P82など) ②2年「せいりつの中にある音を楽しもう」では、セミの声の高低を、図式化して表している。(P29) ③6年「日本や世界の音楽に親しもう」では、見開きに配置した世界地図の上に、各国の音楽を演奏している写真を示してある。(P50、51) |
| 参考 | 国旗・国歌の扱い | あり | あり |